

F&eIT シリーズ  
リードリレー接点出力モジュール  
RRY-4(FIT)GY



※製品の仕様・色・デザインは、予告なしに変更することがあります。

※F&eIT は、株式会社コンテックの登録商標です。

特長

- 4点の独立コモソリードリレー接点出力ができます。
- 出力定格は、1点当たり最大 125VAC/30VDC、2A の大容量に設計されています。
- ロータリスイッチにより Device ID の設定が行え、機器番号管理が容易になります。
- 他の F&eIT シリーズ製品と同様、35mmDIN レール取り付け機構はモジュール本体に標準で装備されています。また、コントローラモジュールとの接続は側面でスタック接続するユニークな構成になっているため、バックプレーン基板などの接続機器を使用せず、簡単、かつスマートにシステムを構成することができます。

商品構成

- 本体[RRY-4(FIT)GY]…1
- ファーストステップガイド…1
- メディア\*1 [F&eIT Series Setup Disk]…1
- インターフェイスコネクタプラグ…1
- 登録カード&保証書…1
- シリアルナンバーラベル…1

\*1: 添付メディアには、ドライソフトウェア、説明書を納めています。

本製品は、各種コントローラにリードリレー接点出力インターフェイスを増設する拡張用モジュール(デバイスモジュール)です。F&eIT シリーズの I/O コントローラモジュール

<CPU-CAxx(FIT)GY>\*1、マイクロコントローラユニット<CPU-SBxx(FIT)GY>\*1 と接続して使用します。

1 モジュールで最大 4 点のリレー出力ができます。

この解説書をよく読んで、アプリケーションプログラムの作成、スイッチの設定や外部機器との接続など、システムの構築を行ってください。

\*1 型式内の「x」は、無記名または英数字 1 文字を表し、製品が異なります。以降同様

仕様

機能仕様

項目	仕様	
出力点数	4 点	
出力形式	リードリレー接点(1 メイク出力)出力	
出力部 リレー接点仕様	最大許容電圧	125VAC、30VDC (Max.)
	最大開閉電流	2A (Max.)
	接点対誘磁抵抗	30mΩ以下
	応答時間	7msec以内
	機械的寿命	2000 万回以上(開閉頻度 180 回/分)
	電氣的寿命	10 万回以上(開閉頻度 20 回/分)
	使用リレー	PA1a-5V
共通部	内部消費電流	5VDC(±5%) 150mA(Max.) *1
	信号延長可能距離	50m 程度(配線環境による)
	外形寸法 (mm)	25.2(W)×64.7(D)×94.0(H) (ただし、突起部は含まない)
	モジュール本体の質量	100g
	モジュール接続方法	本体に標準装備されている導針機構によるスタック接続
	モジュール設置方法	35mmDIN レールにファンタッチ取り付け(取り付け機構は本体に標準装備)
	適合線材	AWG28 - 16
適合プラグ	FRONT-MC 1,5/12-STF-3,81 (Phoenix Contact 社製)	
規格	VCCI クラスA、FCC クラスA、CE マーキング (EMC 指令クラスA、RoHS 指令)、UKCA	

\*1 スタックコネクタの許容電流値は 3.0A(Max.)です。

設置環境条件

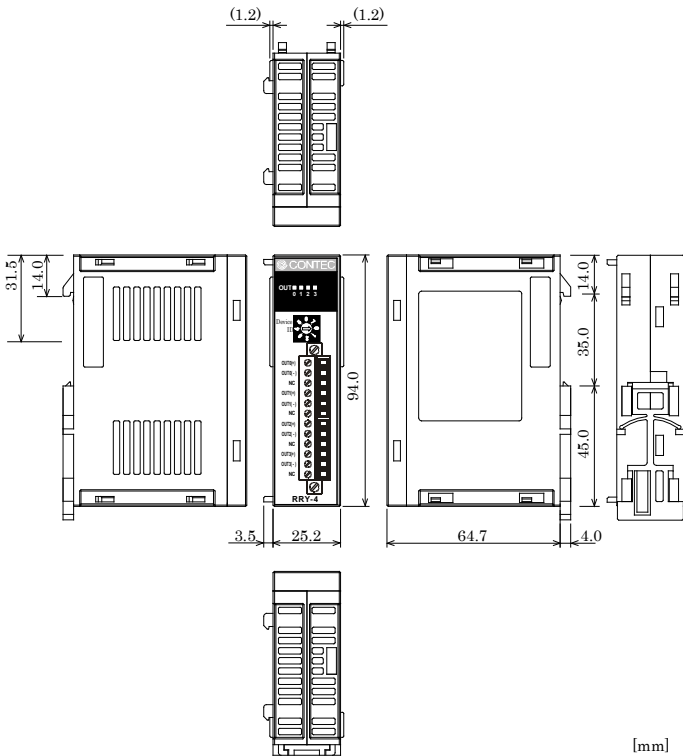
条件項目	条件内容	
使用周囲温度	0 - 50℃	
保存周囲温度	-10 - 60℃	
周囲湿度	10 - 90%RH(ただし、結露しないこと)	
浮遊粉塵	特にひどくないこと	
腐食性ガス	ないこと	
耐ノイズ性	ラインノイズ	AC ライン/2kV、信号ライン/1kV (IEC1000-4-4Level 3、EN61000-4-4Level 3)
	静電耐圧	接触/4kV (IEC1000-4-2Level 2、EN61000-4-2Level 2) 気中/8kV (IEC1000-4-2Level 3、EN61000-4-2Level 3)
耐振動性	掃引耐久	10 - 57Hz/片振幅 0.15mm、57 - 150Hz/2.0G X、Y、Z 方向各 80 分 (JIS C0040 準拠、IEC68-2-6 準拠)
耐衝撃性		15G X、Y、Z 方向各 11ms 正弦半波 (JIS C0041 準拠、IEC68-2-27 準拠)

\*1 POW-AD22GY 使用時

▼注意

コントローラモジュールと接続する場合は、内部消費電流を考慮してください。総和が電源ユニットの容量を越える場合は、動作を保証できません。詳細はコントローラモジュールの解説書をご覧ください。

外形寸法



[mm]

接続コントローラ別機能・制御方法

RRY-4(FIT)GYは、各種コントローラに接続することができます。

対応コントローラ

- マイクロコントローラユニット : CPU-SBxx(FIT)GY
- I/Oコントローラモジュール : CPU-CAXx(FIT)GY
- モニタリング&コントロールサーバユニット : SVR-MMF2(FIT)

接続可能なコントローラおよび制御方法を確認の上ご使用ください。

コントローラとの接続対応表

○: 接続可  
×: 接続不可

	CPU-SBxx(FIT)GY	CPU-CAXx(FIT)GY	SVR-MMF2(FIT)	SVR-MMF(FIT)GY
RRY-4(FIT)GY	○	○	○	×
Device ID 設定範囲	0-7	0-7	0-7	0-7

接続コントローラ別制御方法一覧

	CPU-SBxx(FIT)GY	CPU-CAXx(FIT)GY	SVR-MMF2(FIT)	SVR-MMF(FIT)GY	CPU-CA10(USB)GY
I/Oアドレスマップによる制御	○				
メモリアドレスマップによる制御		○			
Windowsドライバによる制御*	FIT Protocol		○		
	API-CAP(W32)		○		
	API-SBP(W32)				
	API-USBP(WDM)				○
WEB(ブラウザから設定)による制御			○		

\* API-SBP(W32)は、開発キット[DTK-SBxx(FIT)GY]に添付。その他は、各コントローラに添付。

I/O アドレスマップによる制御

CPU-SBxx(FIT)GY と接続することで、コントローラモジュールからのI/O 命令を直接受けることができます。

メモリアドレスマップによる制御

CPU-CAXx(FIT)GY と接続することで、ネットワーク経由でホストコンピュータよりアクセスすることができます。また、コントロールモジュールの管理するメモリ上に Device ID に従って割り当てられます。ホストコンピュータ上のアプリケーションは、コントローラモジュールの管理するメモリをリード/ライトすることでモジュールを制御します。

Windows ドライバによる制御

Windows ドライバを使用する機能および設定方法は、各モジュールの解説書およびオンラインヘルプを参照してください。

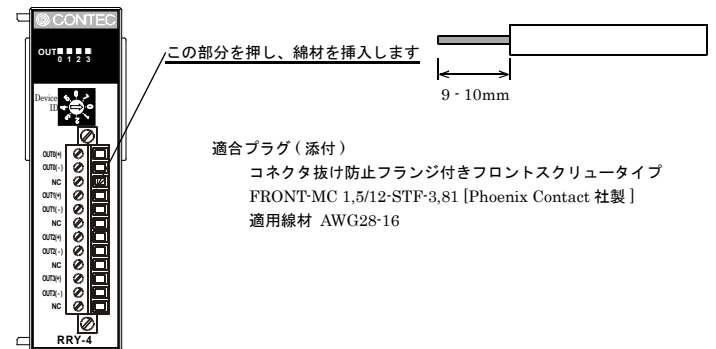
WEB による制御

収集したデータのモニタリングと履歴管理を WEB 上から行えます。各種設定は、使われたブラウザから簡単に行うことができます。詳しくは、SVR-MMF2(FIT)、SVR-MMF(FIT)GYの解説書を参照してください。

インターフェイスコネクタ

◆インターフェイスコネクタの接続方法

このモジュールと外部機器を接続する場合は、添付されているコネクタプラグを使用します。配線を行う場合は、線材の被覆部を約 9 - 10mm 程度ストリップした後、開口部に挿入してください。挿入後スクリューで、線材を固定します。適合線材は AWG28 - 16 です。芯線の締め付けトルクは、0.22Nm です。



▼注意

ケーブルをもってコネクタプラグを取り外すと、断線の原因となります。

◆インターフェイスコネクタの信号配置

このモジュールと外部装置の接続は、モジュールのフェイスに装備された 12 ピンのコネクタで行います。

